

「安心・活力・発展プラン2005」推進委員会委員発言要旨 －福祉保健部会－

開催日：平成21年7月1日（木）14：00～16：00

場 所：トキハ会館 カトレア

出席委員：村上部会長、石田委員、小野委員、河村委員
後藤委員、田北委員、松田委員

テーマ1 男性の子育て参画の推進について

〔提案理由〕

- ・中期行財政運営ビジョンでは、「子育て満足度日本一を目指す大分県」を政策目標に掲げ、取組の柱の一つである「ワーク・ライフ・バランスの推進」において、「男性の子育て参画日本一」を目指している。
- ・本県の未就学児童のいる男性の家事・育児時間は、1日当たり36分で、全国平均の56分を大きく下回っている。（総務省：平成18年社会生活基本調査）
- ・男性の子育て参画は、女性の育児負担を軽減し、女性の就業継続や子どもを生みたいという気持ちを高めるとともに、子どもの健全な育ちにもつながることから、その推進が求められている。

〔県民の声〕

- ・母親が育児を楽しみと思えるためには、父親の家事・育児参加が必要不可欠。
- ・父親が育児に関わると子どもの自己肯定感が高まるなど、父親には重要な役割がある。
- ・子どもを朝早くから夜遅くまで預けっぱなしで働いていて、心豊かな子どもが育つだろうか……。
- ・仕事と子育ての両立支援制度はあるが、職場の雰囲気や上司の理解がないので活用しにくい。
- ・子育てをしたいと思っている男性も、長時間労働等のためにそれができない。

〔議論のポイント〕

（1）本県の男性の意識改革について

- ・家事・育児時間が全国平均を大きく下回っているという調査結果を踏まえ、本県女性の継続就業促進にもつながる、男性の家事や育児に携わる意識を高めるためにはどうすればよいか。

（2）男性の働き方を改革する取組について

- ・男性の働き方を改革し、「子育てと仕事の両立ができる職場環境」を県内の中小企業で確立するために必要な方策について。

（3）次代の親となる若い世代に向けた啓発について

- ・将来、子育てを担うこととなる子どもたちに、「男性も子育てをするのは当たり前」という意識を持たせるための方策について、意見を伺いたい。

〔議事概要〕

（「男性の子育て参画日本一」を目指すことについて）

- ・我々がまず考えないといけないのは、子どもにとっての最善の利益。子どもたちが、この大分県に生まれて良かったという「安心」と、若い人が生き生きと働く「活力」、そして「発展」を目指していただきたい。
- ・男女共同参画社会を推進する中、三世代子育て、協育などの視点が必要。そして、男性ももう少し協力しませんかぐらいを目指さないと。「男性の子育て参画日本一」では、若い女性が勘違いして、育児放棄につながるのではと懸念する。
- ・親になった男性の子育てだけではなく、生んだ人、生めない人、生まない人も含め、社会全体で支える仕組みが必要。
- ・男性の家事育児時間が最下位でも、合計特殊出生率は全国7位。男性の育児参加は大事なことだが、決定的な要因とは思えない。親のことだけではなく、祖父母の存在や周りの環境など、何かあると思う。それが何か探っていないといけない。

（両親ともに働くための環境整備）

- ・核家族化があまり進んでない大分県で、両親がともにその能力を発揮するためには、まず祖父母、そして保育園や子育て支援センター、あるいは地域の力が必要。
- ・地域に子どもを預かってもらえる場所がない。放課後児童クラブなどを増やすと言われるが、現実には預かってもらえないので、事業所での保育も考えざるを得ない。子育て中の両親がしっかりと働けるよう、安心して子どもを預かってもらえる場所を早急に整備してもらわないと、共倒れになる心配がある。
- ・経営者団体・労働団体・行政の代表者による「おおいた子育て応援共同宣言」を、県内企業に広く認知・浸透させ、積極的に各企業レベルの取組を促進して欲しい。

（男性の意識改革）

- ・人間としてお互いを思いやる気持ちが本質だが、スキルやトレーニングの不足で、うまく手を出せないこともある。家庭や学校の教育、あるいは男性向けの妊婦学級などで体験を積むと、両親による子育てが進むのではないか。
- ・どんな制度を作っても、男性が子育てを役割として本当に意識し、必要性を感じていなければ活用されない。

（子どもたちへの啓発）

- ・生命の大切さや家庭の役割は、結婚・出産前からではなく、幼児の時から継続して教える必要があり、子どもの時から日常生活力を育まなければいけない。
- ・子どもを育てていく家庭とはどういうものか、教育現場等で教えられているのか？見直していく必要があるのでは。

（その他）

- ・県職員や教師など、公務員がまず育児休暇を取り、手本を県民に示してもらいたい。
- ・子育て基金を創設し、子ども手当支給や大学までの授業料無料化など、金銭的支援も検討して欲しい。

テーマ2 高齢者がいきいきと暮らし働くことができる地域づくりについて

〔提案理由〕

- ・中期行財政運営ビジョンでは、「いきいきと暮らし働くことのできる大分県」を政策目標に掲げ、取組の柱の一つである「高齢者の知恵と経験を生かした元気な大分県の実現」において、「高齢者の豊かな知恵や技術を様々な場面で生かすこと、高齢者自身の健康・生きがいづくりや就業確保」に取り組むこととしている。
- ・本県の高齢化率は、25.8%で全国平均の22.1%を上回っており、全国10番目、九州では、鹿児島県に次ぐ高い数字となっているが、このことは逆に豊富な知識と経験を積み重ねた高齢者が多いという『大きな強み』でもある。
- ・しかし、その大きな強みを放課後子どもプランや託児サービスの担い手などとして、十分に生かし切れていない。
- ・また、高齢者の自主的組織として社会参加や生きがいと健康づくりに取り組んでいる老人クラブにおいては、近年、会員の高齢化が進み、役員のなり手がいないこと等から活動休止や解散する例もあり、クラブ数、会員数とも減少傾向にある。
- ・このため、今後一層の高齢化が予想されるなか、多くの高齢者が生きがいをもって就労を含めた様々な社会活動に参加できるスキームや環境を整えることが課題となっている。

〔県民の声〕

- ・現職の時のノウハウを生かして社会活動を行いたいけどどのようにすればいいのか。
- ・自分の経験を生かして子育てや児童・生徒への手助けがしたいが・・・。
- ・若い人は地域との関わりがすごく少なく、子育てなどで困っているときに相談する人がいない。
- ・決まり事の多い団体に加入するよりも、気心の知れた者同士で趣味や健康づくりのための活動をやった方が楽しい。
- ・老人クラブで活動しているが、活動の世話をしてくれる人や役員のなり手がなくて困っている。
- ・ビデオ作成に関する技術を持っているが、その技術を生かしながら社会への貢献といくらかでも収入が得られれば良いのだが・・・。

〔議論のポイント〕

(1) 高齢者の知恵と経験を地域で生かすための取組について

- ・豊かな知識や技術を持つ高齢者人材を発掘し、地域において不足している子育て支援や児童・生徒の学習指導等の様々な場面にマッチングするための方策について。

(2) 高齢者自身の健康・生きがいづくりや自己実現を図る仕組みづくりについて

- ・退職間もない団塊世代など誰もが進んで参加し活動したくなる魅力ある老人クラブづくりと、個々のライフスタイルに応じて働く仕組みや社会活動へ参加する仕組みづくりについて。

〔議事概要〕

（地域づくりのあり方）

- ・高齢者が地域の役に立ちたいと考えたとき、組織というよりも、自由に入っていける「場」というか、敷居が高くなく気軽に参加できる仕組みを検討できないか。
- ・高齢者に限らず、若い方もいれば、子どももお年寄りもいるというような、年代で区切らない、世代を超えた柔軟な活動が行えればいい。

（老人クラブ）

- ・老人クラブというネーミングが悪い。地域に必要な組織とは思いますが、「老人」は嫌だから、取っつきにくく、入会しにくい。何かすごく良いイメージを持つ、教室的な小グループをだんだん発展させていくと良いのではないか。
- ・元気にいきいき活動するだけではなく、老いていくことの苦しさや悲しさ、時代が変わっていくことの不安など、精神的な部分を分かち合う活動にも取り組むべきではないか。
- ・いまの60代はまだ若く、パワフル。現役でやっている方も多いため、年齢の縛りを見直してはと思う。

（シルバー人材センター）

- ・高齢者を「ただ」で使おうと思わず、一般の事業所、企業とシルバー人材センターをしっかりと結びつけ、その方々の収入につながるよう期待している。
- ・多様な技能、技術、専門知識を持った方々だが、ちょっと遠い存在に思える。もっと身近に感じられるよう、実際の活動（剪定や子育ての応援）を映像で見せるなど、安心して仕事を頼めるようなPRをしていけばいい。
- ・子育て支援策として、育休で休む方の仕事をうまくカバーするような活動ができるようになるといい。

（高齢者の経験を生かす具体的な取組）

- ・高齢者が子どもたちに、昔からの遊びや草履づくりなどの日本文化を伝承したり、風化しつつある戦争体験を聞かせることはとても大事だが、高齢者に謙虚な方が多いので、参加しやすくなるよう地域での環境づくりに取り組んで欲しい。
- ・高齢者は子育てのプロだから、保育所等において、ゼロ歳児保育との関わりを大いに推進して欲しい。
- ・大人が見ているとわかると、子どもたちは安心するので、登下校や公園での遊び、学校が終わってから指導者が来るまでの「見守り」をお願いすると良い。
- ・子どもや高齢者などの目線で、危険箇所の点検をして欲しい。

（その他）

- ・我々は、老人クラブや高齢者のボランティア、生きがい、社会活動などについての本当の声というか、意識を把握できているのかと思う。県で高齢者の意識調査を行えば、それを元にした新たな施策が考えられるのではないか。